

- 注意: ・ 答案は日本語として理解可能なものである事。数式に対し説明が必要な場合に、数式のみで説明がないときには仮に数式が正しくても満点とならないことがある。
- ・ 採点は減点法を採用する。つまり間違いの内容によっては白紙答案より低い点数になる場合がある。careless miss でそのような事はないが、「分からなくても適当に何か書いておけ」という姿勢で回答するとそうなることがある。
- ・ 内容を理解せずに丸暗記していると判断されたものに対して大きく減点することがあるので注意すること。
- ・ 在籍番号欄について：再履修者は10桁の在籍番号を書く事。再履修者以外は出席番号(多くは2桁)でよい。

1 領域  $D = \{a \leq x \leq b, c \leq y \leq d\}$  を長方形領域とする。関数  $f(x, y)$  の重積分  $\iint_D f(x, y) dx dy$  の定義を述べよ。

$\Delta = \{x_0, x_1, \dots, x_m; y_0, y_1, \dots, y_n\}$  を  $D$  の分割とする。すなわち  $a = x_0 < x_1 < \dots < x_m = b, c = y_0 < y_1 < \dots < y_n = d$  とする。各  $i, j$  ( $i = 1, \dots, m, j = 1, \dots, n$ ) に対し

$$M_{ij} = \sup \{f(x, y) \mid x_{i-1} \leq x \leq x_i, y_{j-1} \leq y \leq y_j\}, \quad m_{ij} = \inf \{f(x, y) \mid x_{i-1} \leq x \leq x_i, y_{j-1} \leq y \leq y_j\}$$

$$\Delta x_i = x_i - x_{i-1}, \quad \Delta y_j = y_j - y_{j-1}, \quad \|\Delta\| = \max \{\Delta x_i, \Delta y_j \mid i = 1, \dots, m, j = 1, \dots, n\}$$

とおく。ただし  $\sup$  は上限,  $\inf$  は下限を意味する。

$$S(\Delta) = \sum_{i=1}^m \sum_{j=1}^n M_{ij} \Delta x_i \Delta y_j, \quad s(\Delta) = \sum_{i=1}^m \sum_{j=1}^n m_{ij} \Delta x_i \Delta y_j$$

とおく。 $\lim_{\|\Delta\| \rightarrow 0} S(\Delta) = \lim_{\|\Delta\| \rightarrow 0} s(\Delta)$  となるとき  $f(x, y)$  は  $D$  で積分可能であるといい、この極限値を

$$\iint_D f(x, y) dx dy$$

で表す。

裏にも問題あり。別紙にも問題あり

学 科		在番 籍号		氏 名	
--------	--	----------	--	--------	--

2  $D = \{0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 2\}$  とする。重積分

$$\iint_D xy dx dy$$

を定義に基づき計算せよ。

$\Delta_n = \{x_0, x_1, \dots, x_n\}$  を  $n$  等分割とする。即ち  $x_i = \frac{i}{n}$ ,  $y_j = \frac{2j}{n}$  とする。

$f(x, y)$  は  $D$  において  $x$  に関しても  $y$  に関しても単調増加なので小領域  $\{x_{i-1} \leq x \leq x_i, y_{j-1} \leq y \leq y_j\}$  における最大値は  $(x_i, y_j)$  であり、最小値は  $(x_{i-1}, y_{j-1})$  である。よって  $M_{ij} = x_i y_j$ ,  $m_{ij} = x_{i-1} y_{j-1}$  である。よって  $M_{ij} = \frac{2ij}{n^2}$ ,  $m_{ij} = \frac{2(i-1)(j-1)}{n^2}$  となる。  $\Delta x_i = \frac{1}{n}$ ,  $\Delta y_j = \frac{2}{n}$  なので、

$$S(\Delta_n) = \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^n \frac{2ij}{n^2} \frac{2}{n} \frac{1}{n} = \frac{4}{n^4} \sum_{i=1}^n i \sum_{j=1}^n j = \frac{4}{n^4} \frac{n(n+1)}{2} \frac{n(n+1)}{2} = \left(1 + \frac{1}{n}\right)^2$$

となる。

$$s(\Delta_n) = \sum_{i=1}^n \sum_{j=1}^n \frac{2(i-1)(j-1)}{n^2} \frac{2}{n} \frac{1}{n} = \frac{4}{n^4} \sum_{i=1}^n (i-1) \sum_{j=1}^n (j-1) = \frac{4}{n^4} \frac{n(n-1)}{2} \frac{n(n-1)}{2} = \left(1 - \frac{1}{n}\right)^2$$

であり、 $n \rightarrow \infty$  のとき  $\|\Delta_n\| = \frac{2}{n} \rightarrow 0$  となるので、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} S(\Delta_n) = \lim_{n \rightarrow \infty} s(\Delta_n) = 1$$

となるので、積分可能であり

$$\iint_D xy dx dy = 1$$

3 次に問に答えながら  $I = \int_0^{\infty} \exp(-x^2) dx$  を求めよ。広義積分

$$J = \iint_D \exp(-x^2 - y^2) dx dy \quad (D = \{x \geq 0, y \geq 0\})$$

とおく。なお  $\exp(X) = e^X$  であり、 $n$  は自然数とする。

(1)  $\{A_n\}$  が  $D$  の近似増加列であることの定義を述べよ。

$A_n (n = 1, 2, \dots)$  が次の条件をみたすとき  $D$  の近似増加列であるという。

- (1) 任意の自然数  $n$  に対し  $A_n$  は有界閉集合である。
- (2) 任意の自然数  $n$  に対し  $A_n \subseteq A_{n+1} \subseteq D$  が成立する。
- (3)  $D$  に含まれる任意の有界閉集合  $K$  に対し、ある  $n$  が存在して  $K \subseteq A_n$  となる。

(2)  $A_n = \{(x, y) \in D \mid x^2 + y^2 \leq n^2, x \geq 0, y \geq 0\}$  とし、 $J_n = \iint_{A_n} \exp(-x^2 - y^2) dx dy$  とするとき、 $J$  を  $J_n$  を用いて表せ。  
このとき極限記号  $\lim_{n \rightarrow \infty}$  を用いてよい。

$$J = \lim_{n \rightarrow \infty} J_n$$

(3)  $J_n$  を計算するため  $x = r \cos \theta$ ,  $y = r \sin \theta$  において変数変換を行う。 $A_n$  に対応する  $r$ - $\theta$  平面の領域  $E_n$  を求めよ。

$x \geq 0$  かつ  $y \geq 0$  なので  $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$  また  $r = \sqrt{x^2 + y^2} \leq \sqrt{n^2} = n$  なので

$$E_n = \left\{ (r, \theta) \mid 0 \leq r \leq n, 0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2} \right\}$$

とおく。 $(r, \theta) \in E_n$  のとき対応する点  $(x, y)$  は  $(x, y) \in A_n$  であり、 $(x, y) \in A_n$  に対し対応する点  $(x, y)$  になるような  $(r, \theta)$  が  $E_n$  に存在する。よってこの  $E_n$  が求めるものである。

(4) この対応で一对一でない部分を求めよ。

$r = 0$  のとき  $\theta$  の値によらず対応する点は  $(0, 0)$  になる。 $0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$  で  $\sin \theta$  は一对一である。よって  $r \neq 0$  のときは一对一に対応する。よって求める領域は

$$\{(r, \theta) \in E_n \mid r = 0\}$$

裏にも問題有り。別紙にも問題あり

学 科		在番 籍号		氏 名	
--------	--	----------	--	--------	--

(5) ヤコビアン  $\frac{\partial(x, y)}{\partial(r, \theta)}$  を計算せよ (計算過程も書くこと)。

$$\begin{aligned} \frac{\partial(x, y)}{\partial(r, \theta)} &= \begin{vmatrix} \frac{\partial x}{\partial r} & \frac{\partial x}{\partial \theta} \\ \frac{\partial y}{\partial r} & \frac{\partial y}{\partial \theta} \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} \cos \theta & -r \sin \theta \\ \sin \theta & r \cos \theta \end{vmatrix} \\ &= r \cos^2 \theta - (-r \sin^2 \theta) = r \end{aligned}$$

(6)  $J_n$  を求めよ。

$$\begin{aligned} J_n &= \iint_{A_n} \exp(-x^2 - y^2) dx dy = \iint_{E_n} \exp(-r^2) r dr d\theta \\ &= \int_0^n \left\{ \int_0^{\frac{\pi}{2}} r \exp(-r^2) d\theta \right\} dr = \frac{\pi}{2} \int_0^n r \exp(-r^2) dr \\ &= \frac{\pi}{2} \left[ -\frac{1}{2} \exp(-r^2) \right]_{r=0}^n = \frac{\pi}{4} (1 - \exp(-n^2)) \end{aligned}$$

(7)  $B_n = \{0 \leq x, 0 \leq y \leq n\}$  に対し  $K_n = \iint_{B_n} \exp(-x^2 - y^2) dx dy$  とおく。このとき  $K_n = \left\{ \int_0^n \exp(-x^2) dx \right\}^2$  が成立することを示せ。

$$\begin{aligned} K_n &= \iint_{B_n} \exp(-x^2 - y^2) dx dy = \iint_{B_n} \exp(-x^2) \exp(-y^2) dx dy \\ &= \int_0^n \left\{ \int_0^n \exp(-x^2) \exp(-y^2) dy \right\} dx = \int_0^n \left\{ \exp(-x^2) \int_0^n \exp(-y^2) dy \right\} dx \\ &= \int_0^n \exp(-y^2) dy \int_0^n \exp(-x^2) dx = \int_0^n \exp(-x^2) dx \int_0^n \exp(-x^2) dx \\ &= \left\{ \int_0^n \exp(-x^2) dx \right\}^2 \end{aligned}$$

(8)  $I$  を求めよ。

$$\begin{aligned} J &= \lim_{n \rightarrow \infty} J_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\pi}{4} (1 - \exp(-n^2)) = \frac{\pi}{4} \\ J &= \lim_{n \rightarrow \infty} K_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \left\{ \int_0^n \exp(-x^2) dx \right\}^2 \\ &= \left\{ \lim_{n \rightarrow \infty} \int_0^n \exp(-x^2) dx \right\}^2 = I^2 \end{aligned}$$

なので

$$I = \frac{\sqrt{\pi}}{2}$$

となる。

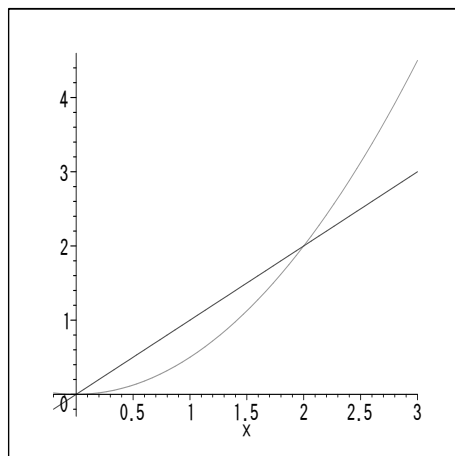
- 4  $D$  を  $y = x$  と  $y = ax^2$  に囲まれる領域とする。ただし  $a > 0$  とする。

$$I = \iint_D 2xy dx dy$$

に関し次の問に答えよ。

- (1)  $D$  を図示せよ。

図は  $a = \frac{1}{2}$  として描いている。



- (2)  $D$  を縦線型 ( $D = \{a \leq x \leq b, g_1(x) \leq y \leq g_2(x)\}$  の形) に表示し,  $y$  で先に積分するタイプの累次積分で表せ (計算は実行しなくてもよい)。

$$D = \left\{ 0 \leq x \leq \frac{1}{a}, ax^2 \leq y \leq x \right\} \text{ であり,}$$

$$I = \int_0^{\frac{1}{a}} \left\{ \int_{ax^2}^x 2xy dy \right\} dx$$

- (3)  $D$  を縦線型 ( $D = \{a \leq x \leq b, g_1(x) \leq y \leq g_2(x)\}$  の形) に表示し,  $x$  で先に積分するタイプの累次積分で表せ (計算は実行しなくてもよい)。

$$D = \left\{ 0 \leq y \leq \frac{1}{a}, y \leq x \leq \sqrt{\frac{y}{a}} \right\} \text{ であり,}$$

$$I = \int_0^{\frac{1}{a}} \left\{ \int_y^{\sqrt{\frac{y}{a}}} 2xy dx \right\} dy$$

- (4)  $I$  を求めよ。

$$I = \int_0^{\frac{1}{a}} \left\{ \int_{ax^2}^x 2xy dy \right\} dx = \int_0^{\frac{1}{a}} x(x^2 - a^2x^4) dx = \frac{1}{12a^4}$$

裏にも問題有り。別紙にも問題あり

学 科		在 番 籍 号		氏 名	
--------	--	------------------	--	--------	--

5 3重積分

$$\iiint_D xyz dx dy dz \quad (D = \{ \sqrt{x^2 + y^2} \leq z \leq 1 \})$$

を次に従って求めよ。

- (1)  $D_z$  を  $z$  座標が  $z$  である平面と  $D$  との共通部分とする。 $D_z$  を  $x$ - $y$  平面内に図示せよ。また  $x$ - $y$  平面内の領域として縦線型に表示せよ。縦線型とは  $D_z = \{ a \leq x \leq b, g_1(x) \leq y \leq g_2(x) \}$  のことである。

$0 \leq z \leq 1$  の範囲で  $z$  を固定すると

$$D_z = \{ (x, y) \mid x^2 + y^2 \leq z^2 \}$$

なので

$$D_z = \left\{ (x, y) \mid -z \leq x \leq z, -\sqrt{z^2 - x^2} \leq y \leq \sqrt{z^2 - x^2} \right\}$$

と表せる。

図については省略

- (2) 3重積分  $I$  を累次積分の形に表示せよ。

$$\iiint_D xyz dx dy dz = \int_0^1 \left\{ \int_{-z}^z \left\{ \int_{-\sqrt{z^2 - x^2}}^{\sqrt{z^2 - x^2}} xyz dy \right\} dx \right\} dz$$

- (3)  $I$  を求めよ。

$$\begin{aligned} \iiint_D xyz dx dy dz &= \int_0^1 \left\{ \int_{-z}^z \left\{ \int_{-\sqrt{z^2 - x^2}}^{\sqrt{z^2 - x^2}} xyz dy \right\} dx \right\} dz \\ &= \int_0^1 \left\{ \int_{-z}^z \left\{ \left[ \frac{1}{2} xy^2 z \right]_{y=-\sqrt{z^2 - x^2}}^{\sqrt{z^2 - x^2}} \right\} dx \right\} dz \\ &= \int_0^1 \left\{ \int_{-z}^z 0 dx \right\} dz = \int_0^1 0 dz = 0 \end{aligned}$$